タウンニュース®

横浜デジタル版

■発　行：株式会社タウンニュース社　横浜中央支社　https://www.townnews.co.jp
■編集室：〒231-0033 横浜市中区長者町 2-5-14 セントラルビル 2F　TEL：045-227-5050（代）FAX：045-227-5051

2026年
（令和8年）
11月26日㈭号

発行責任者：宇山 知成
支 社 長：利根川 真紀
編 集 長：門馬 康二

タウンニュース 横浜デジタル版

タウンニュース横浜デジタル版は、自治会町内会や地域活動などに関する情報を月1回程度お届けします。皆さまの活動に役立つような話題を提供していきます。

■横浜デジタル版は自治会町内会や地域活動などに関する情報をお届けします

緑区
三保地区

住民同士で困りごと解決

草取りなど、依頼に対応

緑区の三保地区連合自治会（村上彰会長）は7月から、草取りや電球の交換などの困りごとを住民同士で解決する取り組み「三保ちょい助」の本格運用を始めている。9月には自治会館で年2回行っている説明会を開き、運用をする上で見えてきた課題や改善方法などについて話し合った。



説明会に参加したメンバーたち

三保ちょい助は、緑区地域福祉保健計画の三保地区別計画でテーマとなっている「ゆるやかな見守りや支え合いを『楽しく』できる仲間づくり」の実践に向けた取り組み。区内他地区の先行事例を参考にしながら、約3年前から準備を進めてきた。

プロジェクトメンバーには自治会役員のほかに、地域のPTA役員や現役で働く世代も加わっている。仕事終わりの夜の時間帯に会議を重ね、昨年7月、試行的に運用が始まった。

三保地区では、住民アンケートの結果からニーズが高かった「草取り」「家具移動」「電球交換」「スマホ操作」の4つのメニューに絞り、依頼を募っている。作業内容を把握して伝達する「コーディネーター」、実際に作業を行う「サポーター」など約30人のメンバーで役割を分担し、試行期間中は約30件の依頼をこなした。



メンバーが考案した「三保ちょい助」のオリジナルキャラクター

運用方法を模索

試行期間中も常に課題を共有し、作業内容を標準化して伝達するために「受付票」を取り入れたり、連絡手段をメールからLINEに変更するなど、効率の良い運用方法を模索してきた。また、仕事量を分散させるために輪番制も導入した。

9月の説明会では、作業の規模や内容が専門業者レベルだった場合や、依頼者と連絡がつかない場合など、イレギュラーなケースの対応について話し合った。プロジェクトの担当者は「これが完成形とは思っていない。これからもやりながら運用体制を改善していく」と話す。村上会長は「困りごとを手助けしに行った先で依頼者のいろいろな話が聞けて状況が分かる。この取り組みには見守りの意味合いも含まれている。三保地区全体に認知を広げていきたい」と展望を語った。

区会
塚町
雀
小

新競技導入で活気

レクリエーション大会、50回の節目

戸塚区の小雀町内会は10月25日、50回目となる「レクリエーション大会」を小雀小学校の校庭で行った。

小学校にも案内配布

半世紀以上続く同大会は、玉入れや、パン食い競争、たる転がしなど、身体を動かし楽しむ競技が目玉。今回初めて小雀小学校の児童にもプログラムを配布し、同町内会に所属していない世帯の子どもたちも参加した。

コロナ禍以降は午前のみに縮小していたプログラムも今回は午後まで拡大し、新たな競技としてリレー式の大玉転がしを導入。数年ぶりに綱引きも行われ、盛り上がりを見せた。

同町内会は2000世帯以上が所属する単独では大きな規模の町内会。大会委員長で町内会長の團野勝美さんと実行員長の金子敏明さんは、20年以上大会の実行委員会に携わっている。團野さんは「運営側も楽しむことが大切。大きなケガなく楽しくできれば成功。子どもたちにも地域のつながりが増えればうれしい」と話した。



大会運営に携わった役員ら

中区と土浦市

民生委員が交流

「地域の知恵」共有

中区の新山下地域ケアプラザで10月14日、中区第二地区・第四地区北部と茨城県土浦市三中地区の民生児童委員ら約50人が集う交流会が初開催された。連合町内会の会長や社協職員らも参加し、県境を越えた取り組みとして実施された。

地域関係の希薄化や民生委員の担い手不足が共通課題となる中、グループワークでは地域の見守りや支援について意見交換が行われた。中区からは孤独死の早期発見などを目的に行っている「見守り世話人会」や訪問のきっかけづくり、土浦のきっかけづくり、土浦の活動事例が紹介されたほか、LINEを活用した連絡や同行支援による負担軽減、自治会や関係機関との連携促進など具体的な工夫が共有された。

土浦市三中地区民生委員児童委員協議会（民児協）では年1～2回、他地域を訪れ情報交換を行っているという。中山恵子会長は、「中区では訪問のきっかけに防災グッズなどを持参していると聞き、高齢者との会話のタネにもなり良い取組だと思った。担い手不足はどの地域も共通の課題。今後は若い人にも参加してもらえるよう声がけをしていきたい」と話した。中区第四地区北部民児協の宇田成子会長は「民児委員の定年が横浜は75歳で土浦は80歳と違いがあった。また、町内会の役員経験者などからも人選するなど、民生委員の活動を活性化させるための参考になった」と話した。



約50人が参加し、活発な意見交換が行われた



盛り上がりを見せた綱引き＝提供

保土ケ谷区
帷子町

麻雀交流 地域に還元

老人クラブ会長　自営店舗の一部提供

保土ケ谷区帷子町で不動産業を手掛ける「市野屋商店」の一室で、毎週火、水曜日に麻雀を楽しむ交流会が行われている。帷子町2丁目の老人クラブ「慶和会」が主催。高齢者の社会的孤立を防ぐほか、参加費を地域の防災訓練の運営費に充てている。



麻雀を打つ参加者

慶和会の会長で同社の代表取締役を務める八ッ橋良光さんは、3月に事業の一部のガラス工事・販売業を廃止した。作業場の片付けを進める中、「この一室を地域のために活用できないか」という思いが芽生えた。そこで、同会の副会長を務める櫻井隆夫さんらに相談。指先を細かく使うことで脳の活性化を促し、仲間づくりの機会になるといわれている麻雀を楽しむ交流会を4月から開催している。

口コミで評判

部屋の広さの関係上、一度に集まれるのは約10人。現在は50代から90代までが参加し、麻雀初心者も楽しく打っている。口コミで評判が広がったこともあり、保土ケ谷区内広域から人が集まり、地域の垣根を越えた交流が生まれている。また、参加者から集める月会費500円は慶和会の利益ではなく、地元で行われる防災訓練の費用に活用するという。

八ッ橋さんは「自然災害が相次ぐ中、住民同士が顔の見える関係であれば、いざという時に助け合える。世代を越えたつながり強化と防災の両面を意識した取り組み」と趣旨を説明する。

新たに本棚設置

八ッ橋さんは、同社の近くにある地域交流施設「帷子番所」の運営にも従事。番所では、歴史資料などの本の貸し出しを行っており、毎週木曜日に読書会を開いている。

この取り組みを参考に9月、交流会の一室に本棚を設置。村上春樹さんの小説のほか歴史資料など約800冊が並び、参加者は番所と同様に本を借りることができる。

「緊急要請」で関心高まる

防災カタログ進呈

自治会・町内会など対象に



首都直下地震や南海トラフ地震など国難級の災害に備えるため、防災庁は11月2日、緊急要請を発表した。国民に向けて水・食料、携帯用トイレの備蓄や非常持ち出し品の準備など事前防災の徹底を呼びかけた。

売れ筋サンプルも

タウンニュース社では、最低限備えておきたい防災用品を紹介したカタログ＝写真＝を制作。地域防災に取り組む自治会・町内会など団体の代表者または防災担当者に無料で送付している。

掲載グッズは防災ボトル、非常用簡易トイレや給水バッグ、ランタン、アルミブランケットのほか安否確認タオルなど。自治会・町内会でこれらの品物をまとめて購入し、防災訓練で住民に配布したり、各世帯での備えを促すことに役立てたりできる。

申し込みは電話でも対応可。各団体につき1回限り、売れ筋品のサンプルも進呈する。防災活動の検討資料としてカタログに目を通してみるのもおすすめだ。

問タウンニュース社☎045・913・4141（土日除く午前9時～午後6時）

カタログお申し込みはこちらから

タウンニュース発

自治会サイト「ジチカ」

タウンニュースによる自治会町内会（以下自治会）まちづくり応援サイト「JichiCa（ジチカ）」では県内各地の自治会専用ページを開設している。

紙の回覧板に伴う作業負担やデジタル化の導入費用など、自治会が抱えている課題を解決。時間や場所を問わず情報共有が可能になる運営環境を整え、地域コミュニティの活性化を地域貢献の一環で後押しする。

現在、エリアを順次拡大中。横浜市内は18区中14区まで広がり、残る神奈川区、港南区、磯子区、金沢区でも準備が進んでいる。最終的に県内に約7300ある自治会ページを作成していく。

自治会専用ページには回覧板コーナーがあり、紙で配布している情報をデータで載せることができる。いつでもどこでも見られるようになるため、情報の遅延を防ぐほか、緊急情報の発信にも活用することができる。

災害・防犯情報も

自治会専用ページ内には、災害・防犯、行政広報紙、ごみ収集曜日検索、Web版タウンニュースの記事など、暮らしに密着した情報も掲載。転居時の情報収集や自治会加入促進への貢献を目指す。

利用受付中

回覧板などの利用を希望する自治会には、パスワードを無料で発行している。利用申込などは☎045・913・4141（ジチカ担当）、平日午前9時から午後5時まで。ジチカHPは（https://jichica.jp/）。

地域コミュニティを表現したジチカのロゴマーク

広告・記事のお問い合わせは☎045・227・5050 横浜中央支社へ